慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ガロ・プラサ著『ラテン・アメリカにおけるデモクラシーの諸問題
	_
Sub Title	Galo Plaza : Problems of democracy in Latin America
Author	賀川, 俊彦(Kagawa, Toshihiko)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication	1958
year	
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and
	sociology). Vol.31, No.7 (1958. 7) ,p.82- 90
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	紹介と批評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara id=AN00224504-19580715-0082

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



Galo Plaza:

Problems of Democracy in Latin America

University of North Carolina Press, 1955

ガロ・プラサ著

『ラテン・アメリカにおける

__

講演を集約したものである。 Weil Lectures on American Citizenship を開講、廣く政治・經濟・社會問題に關する內外知識の吸收とその普及に努めているが、經濟・社會問題に關する內外知識の吸收とその普及に努めているが、本書はこの講座における前エクアドル共和國大統領ガロ・プラサの

民主主義的政治態勢を整えるにいたつた今日、その變革過程においの渦漸に流されるままであつたラテン・アメリカ諸國が漸くにして 表題に示されたように、本書は過去一世紀にわたつて獨裁と革命

て直面した種々の問題を取り上げたものであるが、特に共産主義とて直面した種々の問題を取り上げたものであるが、特に共産主義とを通じて、最後にラテン・アメリカ諸國民は本來、平和愛好的性格の持までもなく、ラテン・アメリカ諸國民は本來、平和愛好的性格の持までもなく、ラテン・アメリカ諸國民は本來、平和愛好的性格の持まなのだが、政治的・經濟的登困はとかくしてかれらの判斷の均衡主なのだが、政治的・經濟的登困はとかくしてかれらの判斷の均衡をくずし、自暴自棄的行動に走らせ易い。しかし、政策的見地からならびにアメリカ諸國の國際的經濟的登困はとかくしてかれらの判斷の均衡を分がにアメリカ諸國の國際的經濟的登別に出發し、自方大統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗ら大統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗方統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗方統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗方統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗方統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗方統領として實際政治に關與したエクアドル共和國における經驗方統領として實際政治に関與したエクアドル共和國における經驗的方式。

gation of Ecuador in Washinton を振り出しに公的生活に入gation of Ecuador in Washinton を振り出しに公的生活に入gation of Ecuador in Washinton を振り出した公的生活に入るない。 Gation of Ecuador in Washinton を振り出した公的という。 El Colegio Nacional Mejía de Quitoを一九二五年に卒業したかれば、ひきつづき The Universities of California, Maryland and the Georgetown School of California, Maryland and California, Mary

供するものと云えよう。

供するものと云えよう。

供するものと云えよう。

供するものと云えよう。

供するものと云えよう。

の迫力が含められており、合衆國の對外政策に良き反省の素材を提無する。

の迫力が含められており、合衆國の對外政策に良き反省の素材を提供するものと云えよう。

つぎに三章からなる本書の問題點を逐章的に略述紹介しよう。

そこで、眞實にして戰闘的なデモクラシーを確保するために南北兩 びこらせ、强力な連合に代つて弱體な內容を露呈したままでおくこ 的連合をしなくてはならないのではないか。こういつた問題提起か 義性がある。したがつて、善隣關係に根本的に必要な理解と寬容の メリカーノス(新大陸生れの者)という點で、それに上廻る深い同 も五世紀にわたる西歐文明、歴史構造、それにわれわれすべてがア 人種的・心理的そして文化的相違にもかかわらず、そこには少くと 偉業を成し遂げようではないか。兩者を區別する歷史的・經濟的・ アメリカ相互の理解と寛容とに基づいた協力的精神をもつて、この メリカ諸國民に課せられた役割に不忠實なことを意味するものだ。 とは、世界の指導者としての合衆國國民、自由の擁護者としてのア 無知・疾病ならびに宣傳のままにラテン・アメリカに共産主義をは ら、全西半球にデモクラシーの内部的稜堡を構築しえず、また登困 を危うくせんとする諸勢力に對して大十字軍のような强力なる軍事 ている。デモクラシー防衞のために、われわれは精神的價値の基礎 して、デモクラシーの挑戰に對する危機意識に問題の大前提を置い のだとの信念を捨てて、精神狀態の變更から始めねばならない」と は「われわれの知る限りの世界が保障され、破滅など考えられぬも 藏財産とするデモクラシーをこの變動する世界において守るために すなわち國家建設の諸原理と諸理念に基づいたわれわれの最大の秘 て、著者は合衆國がその歴史を通じて具現化してきた生活の哲學、 第一章 北アメリカと南アメリカ―

も見苦らない。 精神以外に、今さら新たなかけ橋を必要とするほどの深淵はどこに

紀中には歴倒的にラテン・アメリカが人口の點で優つていたのであ **着入口二○○○萬人に比して合衆國は三九○萬人であつて、十八世** 人にすぎなかつた。合衆國獨立當時にも、ラテン・アメリカの非土 の人口が一○萬であるに比し、ニュー・ヨークのそれは僅か二○○ タンがプリムスに到着したのであり、當時のブラジルのポートシー がサント・ドミンゴに設營地を見出してから一二八年後にピューリ る比較で興味ある點は、兩大陸における人口比である。當初、白人 されつつあることを示し忘れてはいない。さらに兩者の發展に關す デモクラシーへの意識的かつ實際的接近によつて近年とみに均等化 史的に顯著な兩者間の相違は、しかしながら、ラテン・アメリカの 民主的憲法下に專ら發展の一途を辿つた合衆國との歷史的比較。歷 い過程の理論的究極點としてフィラデルフィアにおいて起草された 的迫害から遁れ、自由と寬容の基盤の上に新しい社會を組織し、長 過去の遺産をも引繼いでしまつたが、他方ヨーロッパにおける宗教 たラテン・アメリカは、獨立とともに獨裁制と混倒した社會秩序の 配された植民體制からなんらの自治の經驗なくして獨立をかちとつ きた經濟關係。カソリック教會の名の下に絕對專制政治によつて支 カが、その工業化運動によつてここ數十年間に著しく樣相を變えて あり、工業製品の需要者であり絕好の市場であつたラテン・アメリ 的アプローチを試みる。 このような問題提起にはじまつて、著者は南北兩アメリカの比較 それが十九世紀に入つてからは、一八七○年における合衆國人 かつては全く一方的に原料資源の供給者で

して「抽象的、 をとりまとめるならば結局、北米の極端論者はラテン・アメリカを 國相互の、むしろ極端から極端の諸見解を披瀝するのだが、それら めに北米人のラテン・アメリカ觀とラテン・アメリカ人の見た合衆 の相互的問題や複雜性を眞に理解することを强調している。そのた 民相互の間に發しなくてはならない」として、文化的・心理的構造 强調し、「すべて

真の理解は

政府の

諸政策に

發するものではなく、

國 ていることとして尊重せねばならない。むしろ、本書ではこの點を 理的要素も人間關係におけるその重要性と同様、大きな比重を占め 生活諸條件と平行して向上的展開を續けていることを示している。 これらの問題も最近數十年間における工業化の推進によつて多くの つた地質的見解、交通、教育、疾病など種々の問題について論じ、 という點には、それが發展上の障害としていかに大きく 作 用 し た な領域をもつラテン・アメリカでは縦の移民の必要に迫られていた 移民を爲しえたに對して、廣大な熱帶地にアマゾン峽谷地帶に大き ることはいうまでもないのだが、亜熱帶的環境にある合衆國が橫の 情勢の變轉に政治的安定性と地理的環境の影響が大きく支配してい 人口增加率は合衆國一・四%、ラテン・アメリカー・九%)。 この 査では合衆國およびラテン・アメリカの人口はともに一億五千萬、 には七六○○萬對六三○○萬と形勢逆轉している(一九五○年の調 口三八五○萬に對してラテン・アメリカは三八○○萬、十九世紀末 か、理論的に重視されても良かろう。その他、地下資源の問題を扱 歴史的、自然的環境の比較に加えて、一方、國際環境における心 人間的、そして觀念的精神の世界を夢みてうずくま

つている、從順な、

しかし派手好みで怠け者の劣性的混血人種の住

熟な野蠻人」だときめつけている。この二つの意見はどちらも相互 む土地」であるとし、 にこういつた溝が流れていることは認識しなくてはならない。 の一面的觀察に過ぎないものではあるけれども、お互いの國民感情 な國民……善意にして高度に專門化されてはいるが、精神的には未 てはいるけれども、より水續的な理知的價値を樂しむことの不可能 超自然的で快樂的生活のためにメカニカルな手段をふんだんにもつ 極度の民族主義、物質的プラグマティズム哲學の産物であり、 他方ラテン・アメリカの北米觀は「人種的偏

他の國家群もラテン・アメリカ諸國ほど類似點と連帶性をもつもの が、以上の南北兩アメリカにおける價值體系や諸見解の相違ならび 近せしめ うる 精神的交流と 價値ある 貢献を將來に求めているのだ に類似點に關する分析を通じて、著者は次に記すような結論を導く。 (1) 種々の相違點が存在するにもかかわらず、世界中いかなる かくして、相互の基本的要素をなんら失うことなくして兩者を接

つている。

- 互同志を見つめねばならない。 む隣人として、眼をヨーロッパのみに固定することなく、さらにお において、兩者は極めて密接である。したがつて、共に新世界に住 て遙かに量的に優つている。しかも、新しい希望に溢れた生活概念 南北兩アメリカを比較對照するに、類似點は相違點に比し
- なつてきている。われわれは、われわれ自身の人間的、自然的諸資 ラテン・アメリカ人は more pragmatic, more specialized に more world-minded, more humanistic になりつつあり、他方 (3) さいごに、兩者は相互依存と統合の運命にある。北米人は

紹 介 ٤ 批

評

源を用いてこの大陸内の結束の特權を獲得すべく全力を 捧 げて い の誕生、それにわれわれが豫期している曙光の出現を凝視している る。今や、われわれは新しい人類、新大陸の人間、 新時代の主人公

のだと誇張でなしにいうことができる(一九頁)。

ラティックな國家に改變せしめた著者の大統領としての諸經驗を扱 **氮を續けてきたエクアドル共和國を、僅か數年にしていともデモク** 社會的にラテン・アメリカの典型としても差支えないほどの紛糾混 は、比較的に生活環境に惠まれているとはいえ、歴史的・政治的・ エクアドル――デモクラシーにおける 經驗:

者による革命と無秩序の時代、平和的装いをこらしてはいたものの 王國とまでいわれている平和なエクアドルを作りあげる大きな要因 肥沃な土地である。このように惠まれた立地條件が、今日、バナナ まことに紊倒をきわめるものがあつた。獨立の祖シモン・ボリーヴ アンデス山系を控えているために、その氣候は熱帶から寒帶にかけ はない。これは南極海から南米西海岸を北上するフンボルト海流の ル共和國が誕生したのは一八三〇年であつたが、その後、 ァルの建設した大コロンビア共和國から、さらに分離してエクアド であることはいうまでもないことではあるが、歴史的、政治的には ての地域をもち、またその國土は火山灰に蔽われた世界でも有數の 恩惠であつて、豫想に反して海岸地方も炎熱ほどではない。しかも、 エクアドルは赤道直下に位置するも、その氣候條件はさほど悪く

に破るほどの紛糾ぶりを示しているのである。およそ、このような年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起つて徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起って徹底的政治改革が行われ、國家と年、初めて眞の國民革命が起って徹底的政治政治、

績を成しえたのであるが、その秘訣は何であつたか。

ドル國民全體の大統領であることを國民に誓つた」(三一頁)。およ を大地につけて、國民が長らく主張してきたこと、空しい希望を抱 念は"Give the Government back to the people"(政府は 裁政權の 樹立が 考えられるところであるが、「デモクラシーの諸制 なるまい。通例として、かかる場合には軍隊を背景とした强力な覆 アメリカ的解釋からすればまことに貴重な發言であつたといわねば 固たる政治信念のもとにそれが實行されたとなると、從前のラテン 民に對する誓約を終止守り續けると同時に、一國の指導者として確 緊急避難の義務を負つた大統領の發言であり、しかも誠心誠意、國 し、これが、政治的、社會的混亂のどん底にあつた國家において、 セージをわざわざ揚げねばならぬほど陳腐なことはあるまい。しか そ、民主主義を標榜している諸國の元首としては、このようなメッ に私は、私を選んでくれた人々の大統領としてのみならず、エクア 客としてではなく役者として參加することを要請した。……さいご くことの困難なることを主張し……國民が國家建設のこの仕事に觀 して變る奇蹟は約束しなかつた。……むしろ將來の繁榮の基礎を築 する旨のメッセージであつた。私は(國民の生活諸條件が)一夜に 心した。私の最初の言葉は、國民の意思を尊重し、固く自由を遵守 いてきたことなどを聞き、かれらの希望に從つて行動することを決 國民の踏臺たれ)ということであつたことを强調している。 「私は耳 た諸政策を披瀝しているが、要するにかれが大統領として貫いた信 おいて、エクアドルを民主主義の軌道に乘せることを可能ならしめ 著者は具體的な事例を擧げて、政治的、社會的、經濟的な各分野に

かれの躍如たる政治的信念が窺い知られ、また同時に民主的實際政 しくとも國家に恒久的利益をもたらすであろう方式を選んだ點に、 い精神的犠牲であろう」(三二頁)として、あえてその道程は遠く嶮 しかも速やかな物質的業績と引換えに、それ以上に大なる、より架 良かつたか知れない。しかし、その代償は……おそらく、大量な、 限や世論の批判に關與せずに行うことはどれほど容易であり都合が

におけるその極めて重要な役割を認識させることになつた。 て、自由なる出版における一定の道德的限界ならびにデモクラシー 根據なき誹謗に對する一般興論や多數新聞の憤激を誘うことになつ 改變せしめたし、また、誹謗者に對しての寬容な態度は、 あつた。しかし、かれの誠意と信念は助言者をして積極的協力者に する特權を利した政治的誹謗者の攻撃の矢面に立たせられたことも した人々も多くあつたほどであり、またある時には出版の自由に關 な統治方法には、ある場合には段階的に漸進的過程を踏むよう進言 たつて改善ならびに合理化の運動を展開したのである。この刷新的 農業技術の改善、この國の歴史はじまつて以來の國勢調査、結核・ 極的に實行に着手し、經濟組織の近代化計畫をはじめ貿易の多樣化、 がなかつた。とはいえ、國家の恒久的對策として必要なものには積 るのだが――にのり出すところなのだが、かれの場合にはその必要 **―結局、それは獨裁者の個人的威信を强化する究極的目的に依存す** 治家としての成功の秘訣が存している。 マラリアに對する挑戰、さらには政府機構や諸方式など多方面にわ しばしば、民主主義者を裝つた偽善的獨裁は急拵えの社會計畫― かえつて

かくのごとく民主主義的政府は推進され、 幸いにも着々とその成

介 չ 批

> 資するなど、經濟的デモクラシーのみならず、政治的、社會的にデ アドルを世界一のパナナ王國に育成し、國民の生活諸條件の改善に く對處しえたことを擧げ、かえつてその當時の對應策が今日のエク ている。他方、かれの在任中、世界市場における米價の低落による も、事態は事なく終つたが、それは「しばしば國民抑壓の武器であ **叛亂や軍事クーデターの烽火が幾度か擧がつた事實がある。幸いに** 果を收めえたのであるが、通常の立憲政府は緊急事態に處するに獨 第二章を結んでいる。 モクラティックなエクアドルを築き上げることに成功したとして 經濟的緊急事態に直面した時にも、法の嚴格な限界を越えることな 民主體制下にあつてもその對處法になんらの變更なきことを主張し (三七頁)として政府と軍隊との協力關係を明らかにしている傍ら る眞直ぐな狭い道から、邪道に外れぬことを誓う機會をもつた」 ためであり、「私の政權擔當中、軍隊はもはや國家ならびに憲法を守 とに貢献する新たな信頼性ある、かつ愛國的な態度をとり入れた」 つた軍隊が、政治組織を堅固ならしめること以外の、それ以上のこ 的な活動を不可能ならしめる。プラサ政權時代にあつても、地方的 る。緊急事態は必然的に民主政治の限界下における迅速にして徹底 裁政治ほどには 效果的に 對處しえぬ事實が しばしば 指摘されてい

72

リカ全體としての大局的な視野からその將來にパースペクティヴを 過去における實際政治上の諸經驗を通じ、さらにラテン・アメ ラテン・アメリカにおけるデモクラシー 過去と將來

には、それはきわめて困難なことといわねばならない。

表の主張を要點的にとりあげ、論評を加えている。カラカスに開催された第十囘アメリカ諸國國際會議における諸國代あてはめようとするもので、一九五四年三月、ヴェネズエラの首都

將來を洞察しうる眼をもつて、可能な投資を通じ實行に移されねば 須なることはもちろんであるが、國家の巨大な富が外國權益下にあ 的目的に邁進している諸國に對して、かかる經濟政策の有用かつ必 なるまい。すなわち、既に安定した政權の下にデモクラシーの究極 らなかつたことの背景には相應した理由が存在するものと考えねば されねばならない。にも拘らず、あえてこのことが强調されねばな を俟つまでもなく、およそいかなる政府にも當然のこととして要求 に基づいた經濟政策の必要なることは、ヴィセンテ・ラオ博士の言 ならぬ」(五〇頁)ことを主張している。冷靜にして洞察力ある判斷 力的精神をもつて、しかも各國の可能性に從つて、近視眼的でなく をもつた經濟政策が「時間と利益率に關して好ましい條件下に、協 役割の重要性は充分に認めねばならないが、それ以上に高度の水準 したものである。かれは、そのために「民間企業や民間資本の果す の基盤と、したがつて、社會機構の基盤を固く組織することを强調 尊嚴に價した水準にまで高めねばならぬ」 (四九頁)として經濟機構 力の傳染性病菌から防衞するためには、諸國民の生活水準を人間の るが、それは「ラテン・アメリカを破壞的觀念もしくは破壞的諮勢 おいたブラジル共和國代表ヴィセンテ・ラオ博士の演説を擧げてい まず、アメリカニズムによる經濟的統合を强化することに重點を しかも、それが得策上つねに獨裁者との取引を好むことからし むしろ必然的に過激派との闘爭を卷起すような狀況にある場合

における兩國代表の發言を集錄している。グァテマラ外相の演説要 著者はこれら兩國に對して、隣人としての同情的立場から、同會議 者として、また、かれらの工業製品の確かな市場として半植民地的 して「大陸連帶の脅威」と指摘し、集團的に「共産主義に對抗する れえないものである。にも拘らず、國際的反動勢力はグァテマラを られている諸手段、諸計畫は決して共産主義綱領によつては納得さ そしてデモクラシーの確立を目途しているのであつて、そこに用 失敗の經驗からして自らの努力、資源、資本をもつて經濟的再建に、 旨は、外國資本の奴隷的狀況下にあるグァテマラは、過去における に右翼反動勢力に惱んでいるボリヴィアもその例に加えられよう。 がゆえに「大陸連帶の脅威」とまでいわれているのだが、また同時 ものとしてグァテマラが擧げられ、その共産主義勢力の浸透激しき 比較して、無知と貧困の虜囚であり、原料資源と安價な食糧の供出 ニズムには、ラテン・アメリカが「他の高度に工業化された諸國に 劣な行爲に對してこのように痛烈な批判を試みたのち、 ちがいない」(五九頁)。集團の名の下に干涉を正當化せんとする卑 つたもつとも强力な抑壓の武器を、勞せずして再び獲得してきたに (五八頁)であつて、强力な帝國主義諸國は「國際法の進步が捥ぎと 際間の統一、連帶および協力にもつとも無價値な基本的基盤の一つ」 原則は汎アメリカ主義のもつとも無價値な業績にして、アメリカ國 高尙な計畫」という公然たる武力干渉を認めようとした。「非干渉の およそ、かかるジレンマに陷ることを餘儀なくされている最たる 汎アメリカ

依存的地位に保たれている」(☆○頁)ことを自覺した上でこの半球

n。 間の福祉のために效果的ならしめることはできぬことを强調していの現實的諸問題に取組まぬかぎり、それは何らアメリカにおいて人

つて 教唆されているという 口實のもとに 暴力によつて 窒息させら ラシーの環境を稀薄にし、 助けてはいないだろうか。 「彈壓が 反共産主義の 名のもとにデモク カに通例のことながら、それを抑制せんとしている反共産主義勢力 を披露して激しくこれを非難している。しかし、現代、特にアメリ 目的とし努力していることを認める」として共産主義の戰術・戰略 つとして、それが半球の進步的な政治、社會的運動を歪めることを それがアメリカ内政に干渉していること、ならびに、その特徴の一 を主張し解決することには眞の關心をもたない。……ボリヴィアは 題について、「國際共産主義はそれが働きかけている國家的諸問題 としてグァテマラとは對照的見解を示している。また、共產主義問 を認めるより他には何の解決策もないものと考えられる」(六四頁) のもとに、無制限な利潤の獲得を基本的目的としないかぎり、借款 も備えしめる。したがつて、開發のためには、好ましい條件と約定 投資を可能ならしめるより良い條件を用意するという附隨的利益を 合には、それによつて資本財が獲得されるし……さらに將來の民間 ら輸出されてきたことは疑えない。……だが、借款が償還される場 リカに齎らされた資本は、それ以上の資本を利潤という形でそこか 占的に後進諸國經濟に注がれることの優劣を分析し、「ラテン・アメ これに對して、ボリヴィア代表は外國民間資本の投下が排他的獨 かえつて國際共產主義により以上の威信を加えまたその傳播を 社會的政治的進步の試みが共産主義によ

くことをもつて汎アメリカニズムの急務とした點で、ラテン・アメ地盤、すなわち社會的不正、貧困、集團的抑壓などの諸條件を取除助と通して急速に增大していることは確かである」(六七頁)。要す動を通して急速に增大していることは確かである」(六七頁)。要す動を通して急速に增大していることは確かである」(六七頁)。要す動を通して急速に增大していることは確かである」(六七頁)。要す動を通して急速に增大していることは確かである」(六七頁)。要す動を通して急速に増大しているととは確かである」(六七頁)。要するに、また勞働者の合法的な要求が社會秩序を阅す脅威を吹込む共産れ、また勞働者の合法的な要求が社會秩序を阅す脅威を吹込む共産

リカにおける左右兩翼の見解の一致が見られるのである。

共産主義侵略に絕好の好餌を提供するものであることなどを論證し、 「大学」を表するようであることなどを論證し、 「大学」を表するような形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらな形でとり上げるとともに、ラテン・アメリカ内部において立ちらなどを論證し、 「大学」を表示している役割を撃げ、それが結果的に國家経 の開鍵から國政の崩壊をも免かれぬものとすることなどを論證し、 大学主義侵略に絶好の好餌を提供するものであることなどを論證し、 大学主義といった。 大学主義といった。 大学主義といった。 大学工会に、 大学

特に經濟協力の面で現實に立脚した實行力の必要性を力說した主張相トビーアス・パリオス・オルティスによるアメリカ諸國の連帶、解としてメキシコ外相ルイス・パデーヤ・ネルボ、およびチリー外解として、最後に第十囘アメリカ諸國國際會議における綜合的見

ている。

いる。 定した經濟會議に委ねることとして本書に課せられた使命を終えてを掲げ、その歸結を同年十一月、リオ・デ・シャネイロに開催を豫

五

著者ガロ・プラサは、デモクラシーの發展要件として大衆の生活 、さらに合衆國の對ラテン・アメリカ關稅が輕減されることになり、さらに合衆國の對ラテン・アメリカ關稅藥域されることになり、さらに合衆國の極スであると云うべきであろう。

しかし、本書を通讃して考えさせられること、特にそれはグァテ

進藷國の希求する最大のものが秘められてはいないだろうか。 という () では、) には、) には、

では云わぬまでも、單なる政策上の問題に委ねることでは解決は難それがかれらの生活上の信條たるプラグマティズムに基因するとま助と心理的・政治的援助のバランスはきわめて不均衡狀態にあり、御監について檢討の必要を痛感するものである。本書を紹介する最テン・アメリカの對合衆國感情の惡化を例としても、われわれはこテン・アメリカの對合衆國感情の惡化を例としても、われわれはこ

昨今の自由主義陣營內部における中東諸國の紛爭や、あるいはラ

(賀川俊彦)

かしいものといわねばなるまい。